

HULFT UNIX/Linux 自動起動と自動停止

1. HULFT UNIX/Linux 自動起動と自動停止のスクリプト作成

下記のようなスクリプトを作成、パーミッション調整を行い、手作業でHULFT デーモン起動/停止テストを行います。

```

#!/bin/sh -x

# 上記オプションの"-x"については、不要であれば削除して下さい。

# chkconfig: 345 95 05
# description:HULFT_Host_to_Uinx_File_Transfer
#
# 日本語コメントについて
# 環境や文字コード依存で、日本語入りのスクリプトが動作しません。
# 日本語コメントを削除して、各UNIX/Linuxへコピーしてください。
# chkconfigについて
# RedHatのchkconfigコマンドから自動起動/停止を設定
# するために記述します。本スクリプトの実体は、
# /etc/rc.d/init.d/へコピーし、権限を付与します。
# descriptionについて
# RedHatのchkconfigコマンドから自動起動/停止を設定
# するために記述します。
#
#
# JobName      :HULFT starts & stops
# FileName     :hulftd
# Creator       :ESECTOR Ltd. http://www.esector.co.jp/

# Set f_env
f_env()
{
    # Set HULFT Define Environment
    # HULFTの環境変数設定します。
    PATH=$PATH:/opt/hulft/bin:          ; export PATH
    HULPATH=/opt/hulft/etc            ; export HULPATH
    HULEXEP=/opt/hulft/bin           ; export HULEXEP

    # Set logfile PATH
    # 本スクリプトのログファイルパスを設定します。
    LOG_PATH=/var/hulft
    HUL_LOG=$LOG_PATH/hul.log

    # Set LOCKFILE *RedHat only*
    # # RedHad用のサービス ロックファイルを指定します。
    # LOCK=/var/lock/subsys/hulftd

    # Set error flag
    # 本スクリプトの終了ステータス用環境変数
    EFLG=0
}

<右上につづく>

```

```

<左下からのつづき>
# Set f_logch
f_logch()
{
    # if the number of beams is 8(LF is contained.) or more figures -->
    # ファイルサイズの桁数が、8桁(LF含む)以上の場合
    long=`ls -l $HUL_LOG | awk '{print $5}'` 
    if [ `echo $long | wc -c` -ge 8 ]
        then
            # --> it backs up
            # 既存本スクリプトのログをバックアップし、新規作成します。
            mv -f $HUL_LOG $HUL_LOG.bak
            touch -a $HUL_LOG
    fi

    # Set f_start
    # $1:command as huldaemon
    # 第一引数は、HULFT デーモンのプロセス名を記載しています。
    # hulsnnd , hulrcvd , hulobsd の何れかが代入されます。
    # $2:option
    # HULFT デーモン起動用コマンドのオプションを指定します。
    f_start()
    {
        # check hulft daemon still now
        # HULFT デーモン起動中か確認します。
        ps -ef | grep -v grep | grep $1 > /dev/null 2>&1
        if [ $? -ne 0 ]
        then
            # start hulft daemon
            # HULFT デーモンを起動します。
            $1 $2 2>&1
            # HULFT デーモン起動時の終了ステータスをRCDに代入します。
            RCD=$?
            if [ $RCD -eq 0 ]
            then
                # write success
                # デーモン起動に成功した旨のメッセージを出力します。
                echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "$1 starts. ($RCD)"
            else
                # write failed
                # デーモン起動に失敗した旨のメッセージを出力します。
                echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "start of $1 failed. ($RCD)"
                EFLG=2
            fi
        else
            # write "HULFT daemon(s) already started"
            # 既にHULFTが起動していたときのメッセージを出力します。
            echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "$1 has already started."
            EFLG=3
        fi
    }
}

<次ページへつづく>

```

<前ページからのつづき>

```

# Set f_stop
# $1: command $2:huldaemon
# 第一引数は、HULFT デーモンの提示コマンド名を記載しています。
# utlkillsnd, utlkillrcv, utlkillobs の何れかが代入されます。
# 第二引数は、HULFT デーモンのプロセス名を記載しています。
# hulsndd, hulrcvd, hulobsd の何れかが代入されます。

f_stop()
{
    # check HULFT daemon(s) still now
    # 念のため、HULFT デーモン起動中か確認します。
    ps -ef | grep -v grep | grep $2 > /dev/null 2>&1
    if [ $? -eq 0 ]
    then
        # stop HULFT daemon(s)
        # HULFT デーモンを停止します。
        $1 2>&1
        RCD=$?
        if [ $RCD -eq 0 ]
        then
            # write success
            # デーモン停止に成功した旨のメッセージを出力します。
            echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "$2 stops. ($RCD)"
        else
            # write failed
            # デーモン停止に失敗した旨のメッセージを出力します。
            echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "stop of $2 failed. ($RCD)"
            EFLG=2
        fi
    else
        # write HULFT daemon(s) already stopped
        # 既に HULFT が停止していたときのメッセージを出力します。
        echo `date +%Y/%m/%d%t%T` `hostid` "$2 has already stopped."
        EFLG=3
    fi
}

```

<右上につづく>

<左下からのつづき>

```

# Main
# 以下は、メインルーチンです。

case "$1" in
start)

    # HULFT daemon(s) starts.
    # このスクリプトの引数が、start の場合、
    # HULFT デーモンを起動します。

    f_env
    f_start hulobsd
    f_start hulrcvd
    # -c “配信待ち、配信中等”の情報をクリアしてから起動
    # -d 再配信待ちファイル(sddreqls.dat) を削除して起動
    f_start hulsndd "-c -d"

    # make LOCKFILE *RedHat only*
    # # HULFT デーモン起動時に RedHat 用ロックファイルを作成します。
    # touch $LOCK
    ;;

stop)

    # HULFT daemon(s) stops.
    # このスクリプトの引数が、stop の場合、
    # HULFT デーモンを起動します。

    f_env
    f_stop utlkillobs hulobsd
    f_stop utlkillrcv hulrcvd
    f_stop utlkillsnd hulsndd

    # delete LOCKFILE *RedHat only*
    # # HULFT デーモン停止時に RedHat 用ロックファイルを削除します。
    # rm -f $LOCK
    ;;

    # echo usage
    *)
        echo "Usage: $0 { start | stop }"
        EFLG=1
    ;;

esac

# logfile rotation
f_logch()

# exit at error flag
exit "$EFLG"

<スクリプトおわり>

```

2. デーモン起動シェルスクリプト配置

下記例に沿ってHULFTデーモン起動用スクリプト配置してください。また、chown, chgrp, chmod で権限を変更してください。

OS種別	配置ファイル名
Solaris	/etc/init.d/hulftd
AIX	/opt/HULFT/bin/hulftd
HP-UX	/sbin/init.d/hulftd
Linux (RHEL)	/etc/rc.d/init.d/hulftd

コマンド例 (Solaris)

```
# id
uid=0(root) gid=0(root)
# cd /etc/init.d && pwd
/etc/init.d
# ls hulftd
hulftd
# chown root hulftd && chgrp sys hulftd
# chown 0744 hulftd
# ls -al hulftd
-rw-r--r-- 3 744      sys      xxxx xx月 xx日  xx:xx hulftd
# ln -s /etc/init.d/hulftd /etc/rc3.d/S99hulftd          ※1
# ln -s /etc/init.d/hulftd /etc/rc2.d/K05hulftd          ※1
# ls -al /etc/rc3.d/S99hulftd /etc/rc2.d/K05hulftd
-rw-r--r-- 3 744      sys      xxxx xx月 xx日  xx:xx /etc/rc2.d/K05hulftd -> /etc/init.d/hulftd
-rw-r--r-- 3 744      sys      xxxx xx月 xx日  xx:xx /etc/rc3.d/S99hulftd -> /etc/init.d/hulftd
```

Solaris以外は、下記例に沿って、デーモン自動起動/停止の設定を行ってください。

AIXの例

設定ファイル	内容
/etc/inittab	mkitab "HULFT:2:wait:/opt/hulftd/bin/hulftd start" にて反映
/etc/rc.shutdown	rc.shutdown に下記を追加 if [-x /opt/HULFT/bin/hulftd] then /opt/hulftd/bin/hulftd stop fi 注 /etc/rc.shutdown というシェルスクリプトは、OSインストール直後は存在しません。root権限で作成し、実行権限を与えてください。

HP-UXの例

設定ファイル	内容
/sbin/rc1.d/K05hulftd	※1 OSシャットダウン時、HULFTデーモン停止用リンクを作成(リンク:/sbin/init.d/hulftd)
/sbin/rc2.d/S99hulftd	※1 OSブート時、HULFTデーモン起動用リンクを作成(リンク:/sbin/init.d/hulftd)

Linux (RHEL) の例

設定ファイル	内容
/var/lock/subsys/hulftd	HULFTデーモン群起動時左記ファイルを作成し、停止時に左記ファイルを削除すること
/etc/rc.d/init.d/hulftd	HULFTデーモン起動/停止用スクリプトの実ファイルを配置
/etc/rc.d/rc0.d/K05hulftd	※1 OSシャットダウン時、HULFTデーモン停止用リンクを作成(リンク:/etc/rc.d/init.d/hulftd)
/etc/rc.d/rc3.d/S99hulftd	※1 OSブート時、HULFTデーモン起動用リンクを作成(リンク:/etc/rc.d/init.d/hulftd)

※ S99, K05の番号、HULFTを起動/停止するランレベルは、各システム任意とします。

-広告-

情報漏洩対策、内部監査って、何すればいいか、分らないな



まずは、PCの操作ログを取得したいな。
どうすればいいだろう？

IVEX Logger シリーズなら、情報漏洩対策、内部統制整備を強化することができます。

詳しくはWebで..

IVEX Logger Series

http://www.esector.co.jp/product/ivex_logger.html

TEL:03-5789-2443

mailto:ESECinfo@cec-ltd.co.jp